

美意識

ノーベル賞候補だった作家の三島由紀夫は、美を追求した人でした。その代表作に「金閣寺」があります。その中に、主人公の金閣寺修行僧の若者が、心を乱して京都の街をさまよひ、金閣寺にたどり着き、その姿を改めて見て思う一節があります。「私の心は和み、ようようのこと恐怖は衰えた。私にとっての美というものは、こういうもの（金閣寺）でなければならなかった。それは人生から私を遮断し、人生から私を護っていた。」という心の表現です。

美の感覚は人それぞれですが、美に触れることで護られるものが確かにあるようです。イタリアルネッサンスのミケランジェロやカラバッジョの、体が触れ合うリアルな絵画を観ると、鑑賞者の脳が実際に触れ合った時と同じ反応をしていることが、MRIで確かめられています。優れた美術の鑑賞にはそんな脳刺激効果があり、脳を護るという意味で認知症の予防になります。

手術は美しく仕上げるために、一つ一つの作業を丁寧に行いますが、バックグラウンドにモーツァルトなどを流します。音の美が、仕事を良い方向に導いてくれているように思います。美意識が脳に与える効能は、食べ物の栄養素が身体に与える効能に似ています。

世界には様々な美があります。自然の美、芸術の美、学問の美、スポーツの美、所作言動の美、道具の美などすべてに美は感じることができます。そんな美を求めることによって自分自身が洗練され、自信の持てる満足いく人生が作っていけるものと思います。

それぞれの美を求めて、秋の深まりを味わいましょう。

